

37
エレミヤ書
聖徒伝 257

主に遣わされる 者は 守られる

エレミヤ書 37章

投獄されたエレミヤ

あなたは、どこに、誰のもとに
遣わされていますか？

どんな苦難を味わっていますか？

主の守りを実感していますか？

聖書から「派遣」と「守り」を考えます

主に遣わされる者は、守られる

① 信仰者は世に拒絶され 1～10

② さらに拒絶されても 16～26

③ 苦難の中で守られる 27～32



最後の王たち



①⑥ヨシヤ
8歳～(31年)



①⑦エホアハズ
23歳～(3ヶ月)

エジプトで死



①⑧エホヤキム
25歳～(11年)

故郷で死



①⑨エホヤキン
(エコンヤ)
18歳～(3ヶ月)

バビロンへ捕囚

.....



キリスト



①⑩ゼデキヤ
21歳～(11年)

バビロンで死



① 信仰者は拒絶され

エレミヤ書37章1～10節

ユダの荒野

①拒絶

最後の王 エレ37:1~2

ヨシヤの子ゼデキヤは、エホヤキムの子エコンヤに代わって王となった。バビロンの王ネブカドネツアルが彼をユダの地の王にしたのである。

彼も、その家来たちも、民衆も、預言者エレミヤによって語られた【主】のことばに聞き従わなかった。

- ゼデキヤは、エコンヤのおじ。最後の王。捕囚されたエコンヤに代わる傀儡。

なお聞き従わない王と民



①逆らう者 王の願い エレ37:3~4

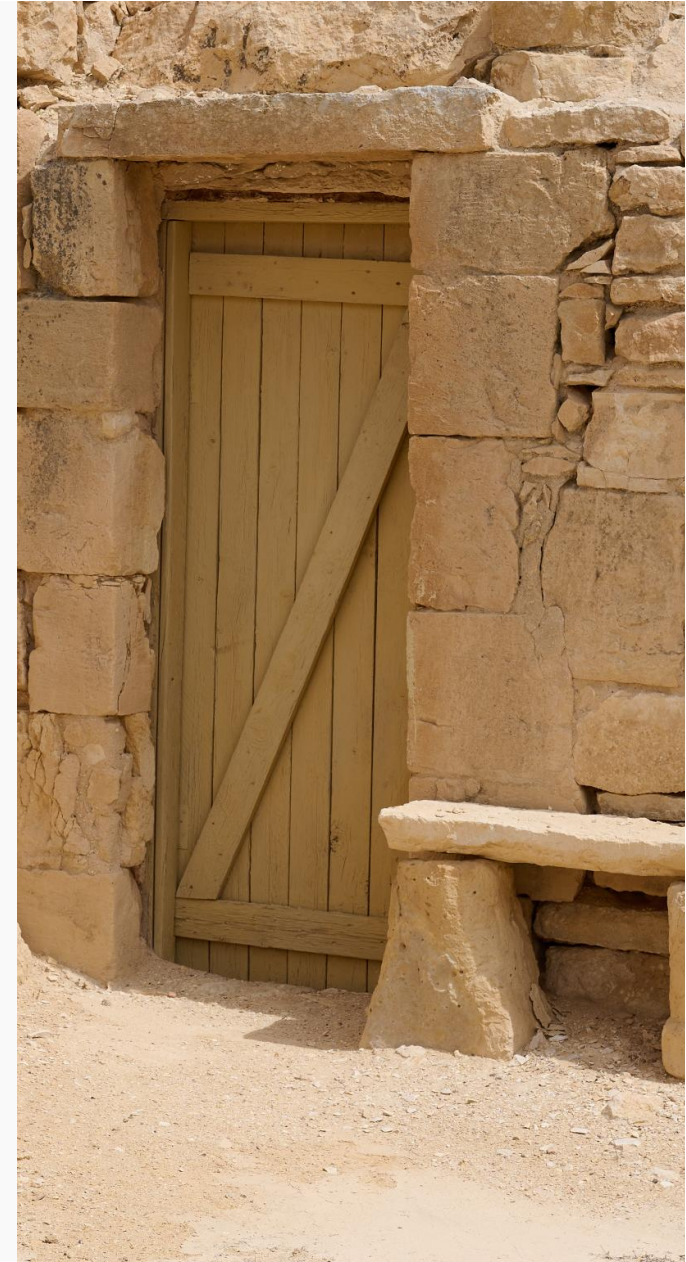
ゼデキヤ王は、シェレムヤの子ユカルと、マアセヤの子、祭司ゼパニヤを預言者エレミヤのもとに遣わして言った。「どうか、私たちのために、私たちの神、【主】に祈ってください。」

エレミヤは民のうちに出入りして、まだ獄屋に入れられてはいなかった。

*悔い改めもないままの祈りの依頼

➔バビロニアへの反逆の成功を願って

■エレミヤが投獄された経緯が語られる。



①逆らう者 間隙を突いて エレ37:5

また、ちょうど、ファラオの軍勢がエジプト*から出て来たので、エルサレムを包囲中のカルデア人は、そのうわさを聞いて、エルサレムから引き揚げたときであった。

*エジプトとバビロニアの対立を利用。

エジプトにすり寄ってバビロニアに反逆。

■ゼデキヤは、このままバビロニアが撤退し、エルサレムが解放されることを願った。



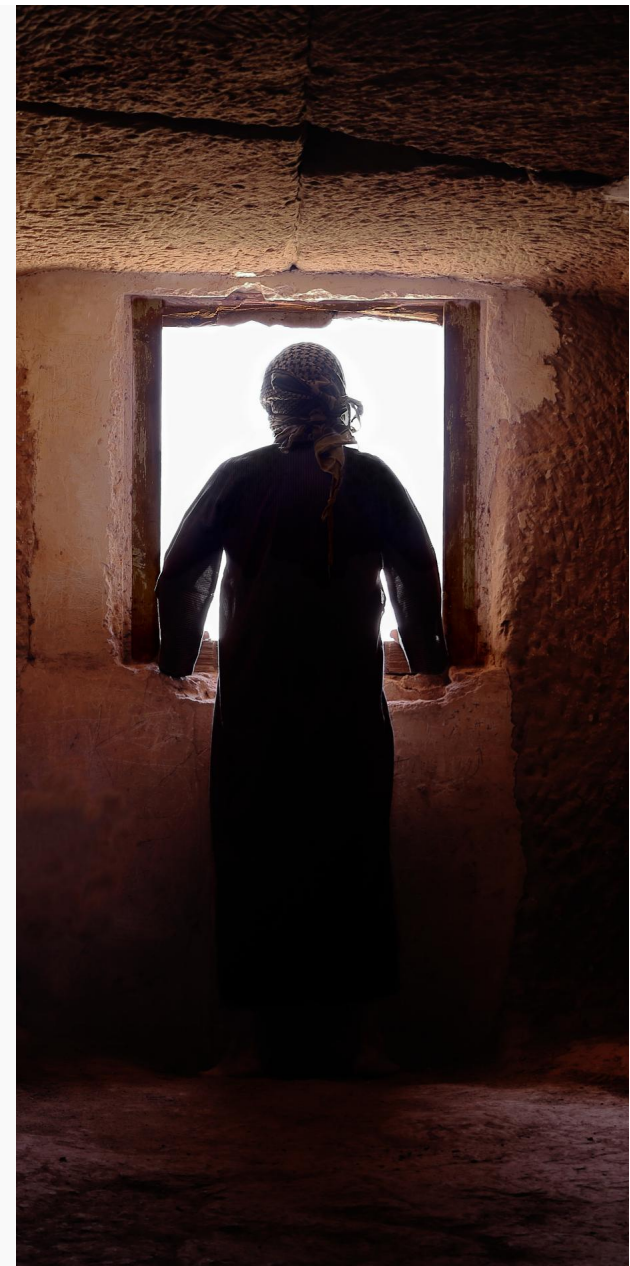
①逆らう者

主の宣告 エレ37:6~7

そのとき、預言者エレミヤに次のような【主】のことばがあった。

「イスラエルの神、【主】はこう言われる。わたしに尋ねるために、あなたがたをわたしのもとに遣わしたユダの王にこう言え。『見よ。あなたがたを助けに出て来たファラオの軍勢は、彼らの地エジプトへ帰り、カルデア人が引き返して来て、この都を攻め取り、これを火で焼く。』」

*バビロニアによるエルサレム陥落



①逆らう者 確定した裁き エレ37:9~10

「【主】はこう言われる。あなたがたは、カルデア人は必ず私たちのところから去る、と言って、自らを欺くな。彼らが去ることはないからだ。

たとえ、あなたがたが、あなたがたを攻めるカルデアの全軍勢を討ち、そのうちに重傷を負った兵士たちだけが残ったとしても、彼らはそれぞれ、その天幕で立ち上がり、この都を火で焼くようになる。』」

- 偽預言にすがっても、軍事的に勝利しても、主の裁きを覆すことはできない。





②さらに拒絶されても

エレミヤ書37章11～16節

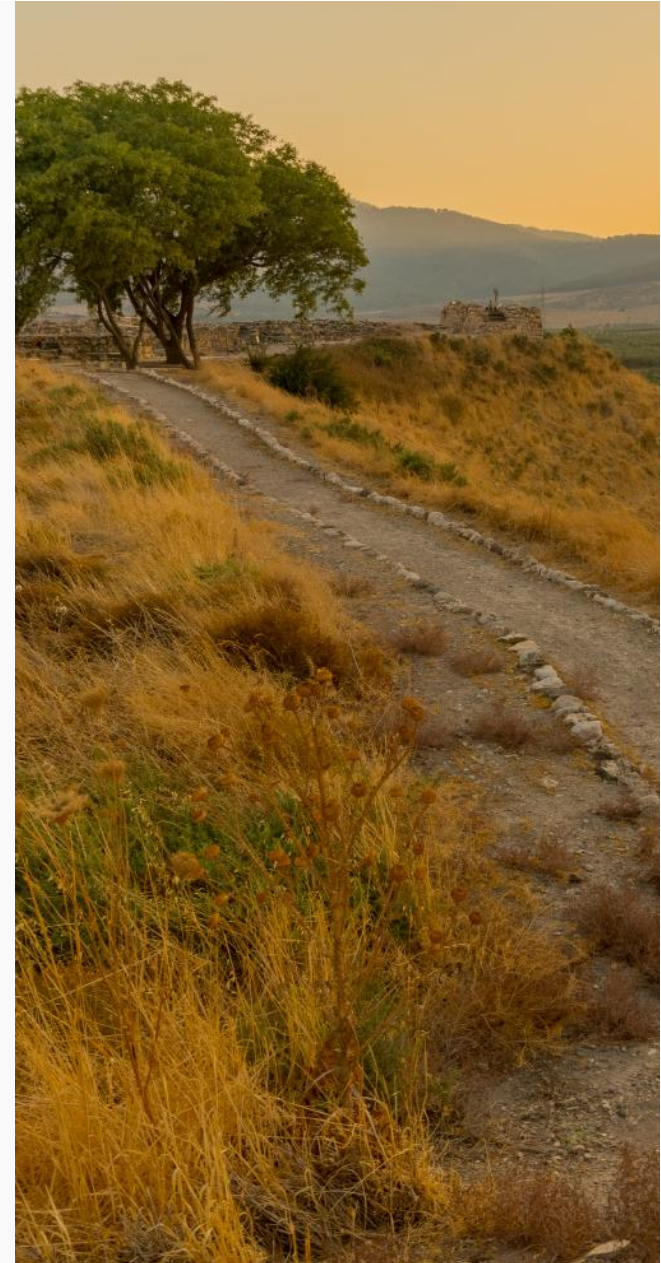
イスラエル

②更なる拒絶 帰郷 エレ37:11～12

カルデアの軍勢がファラオの軍勢のゆえにエルサレムから引き揚げたとき、エレミヤは、エルサレムから出て行き、ベニヤミンの地*に行った。民の間で割り当ての地を受け取るためであった。

*エルサレムの北に隣接。

■土地の相続のために帰郷したエレミヤ。



②更なる拒絶 故郷での捕縛 エレ37:13

彼がベニヤミンの門*に来たとき、そこにハナンヤの子シェレムヤの子の、イルイヤ*という名の当直の者がいて、「あなたはカルデア人のところへ落ちのびるのか*」と言い、預言者エレミヤを捕らえた。

*町の統治機関は門にあった。

*“ヤハウエは私を見ておられる”

*再三、バビロン捕囚を預言してたエレミヤは、売国奴と見なされていたのだろう。



②更なる拒絶

投獄 エレ37:14~16

エレミヤは、「違う。私はカルデア人のところに落ちのびるのではない」と言ったが、イルイヤは聞かず、エレミヤを捕らえて、首長たちのところに連れて行った。

首長たちはエレミヤに向かって激しく怒り、彼を打ちたたき、こうして書記ヨナタンの家の牢屋に入れた。そこが獄屋になっていたからである。

エレミヤは丸天井の地下牢*に入れられ、長い間そこにいた。

*立つのもやっとの狭く、暗い牢だろう



地方の民まで
主を拒絶!!



③ 苦難の中で守られる

エレミヤ書37章～節

ユダの荒野

③神の守り

地下牢から エレ37:17

ゼデキヤ王は人を遣わして、彼を召し寄せた。
王は自分の家で彼にひそかに尋ねて言った。

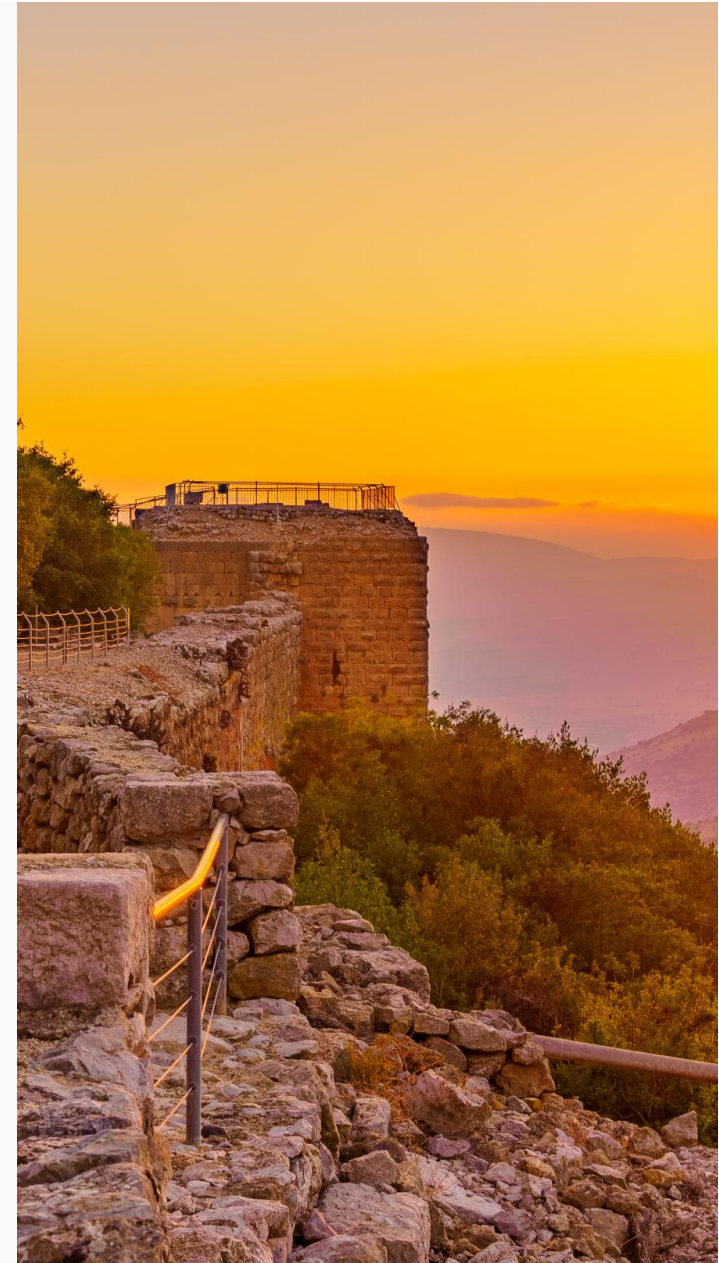
「【主】から、おことばはあったか。」エレミヤは「ありました」と言った。そして「あなたはバビロンの王の手に渡されます」と言った。

■ 王が散々拒んできたのに尋ねるのはなぜ？

➔ うかがえる不安の大きさ

➔ 欲するのは己の安心。都合のいい答え

王は、さらに頑なに!!



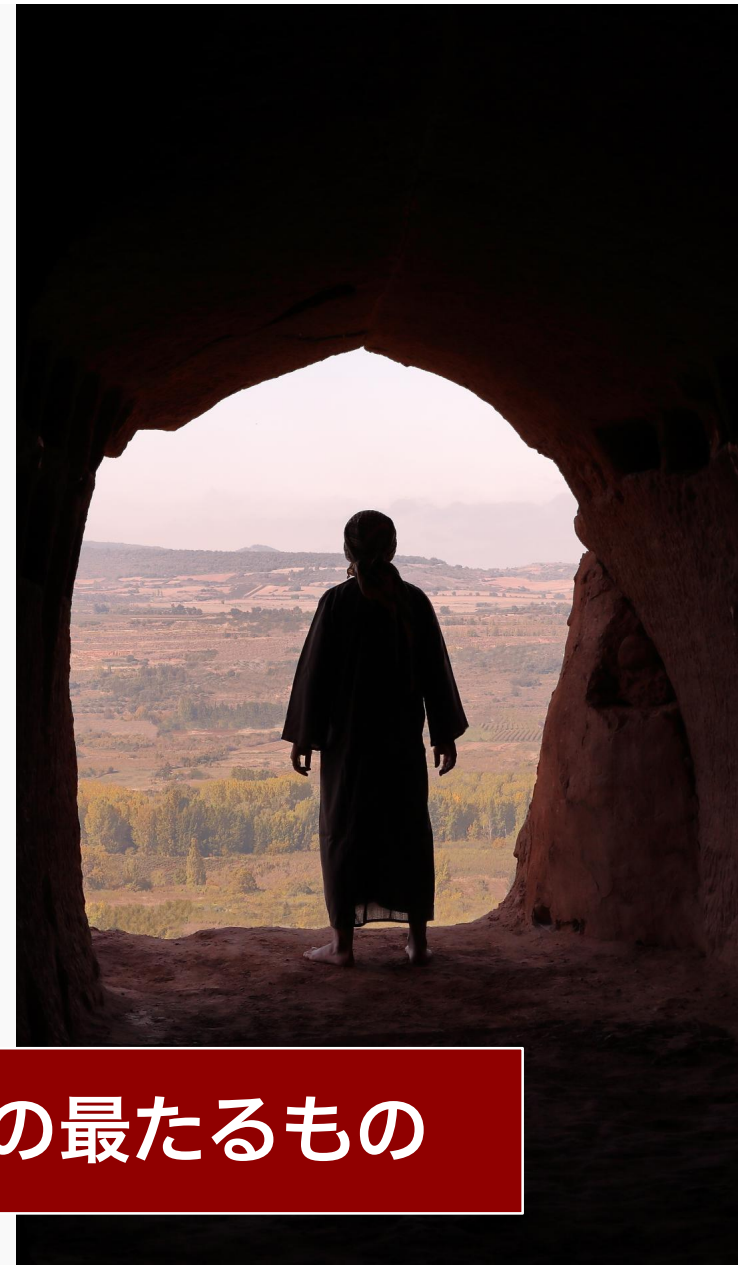
③神の守り

抗議 エレ37:18

エレミヤはゼデキヤ王に言った。「あなたや、あなたの家来たちや、この民に対して、私にどんな罪があったというので、私を獄屋に入れたのですか。」

- 直接、投獄したのはベニヤミンの民だが、背後には王の姿勢が影響していただろう。
- あるいは、裏で捕縛を指示していた？

主の預言者への迫害は、神への反逆の最たるもの



③神の守り

消えた偽預言者 エレ37:19

あなたがたに対して『バビロンの王は、あなたがたとこの地を攻めに来ない』と言って預言していた、あなたがたの預言者たちは、どこにいますか。

- 都合が悪くなれば、逃げる、沈黙するのが、偽預言者。当然、悔い改めはない。
- 数々の偽預言にも関わらず、バビロニアは侵略。エジプトに頼っての反逆も風前の灯火。事態は悪化する一方。エルサレムの滅びも迫る。



③神の守り

エレミヤの嘆願 エレ37:20~21

「今、わが主君、王よ、どうか聞いてください。どうか、私の願いを御前に受け入れ、私を書記ヨナタンの家へ帰らせないでください。私がそこで死ぬことがないようにしてください。」

ゼデキヤ王は命じて、エレミヤを監視の庭に入れさせ、都からすべてのパンが絶えるまで、パン屋街から毎日パン一つを彼に与えさせた。こうして、エレミヤは監視の庭にとどまっていた。

■ 過酷な状況でも守られたエレミヤ。

➔ 背後で働かれる主の守り





まとめと適用

主に遣わされる者は守られる

ユダの荒野

① 信仰者は拒絶され

…最後の王ゼデキヤも、主を拒絶。
世に頼んで主の裁きに抵抗。

② さらに拒まれても

…エレミヤは、故郷でも拒まれ、
捕らえられた。

③ 苦難の中で守られる

…エレミヤは、最悪の状況を脱し、
なお主に守られ続けた。

それでもなお、悔い改めと救いを切に願い続ける

適用

拒まれても、主の福音を伝え続けよう

① 信仰者は拒絶され

…福音を伝えて、拒まれても。

② さらに拒まれても

…なお伝えて、さらに拒まれても。

③ 苦難の中で守られる

…主に遣わされて行くなら、
試練と苦難の中でも守られる。

主に遣わされ、用いられる中で、私たちは守られる

適用

遣わされる者は、守られる

■主イエスの大宣教命令 マタイ28:18~20

「わたしには天においても地においても、すべての権威が与えられています。

ですから、あなたがたは行って、あらゆる国の人々を弟子としなさい。父、子、聖霊の名において彼らにバプテスマを授け、わたしがあなたがたに命じておいた、すべてのことを守るようには教えなさい。見よ。わたしは世の終わりまで、いつもあなたがたとともにいます。」

適用

私たちに与えられた、預言者的使命

- 預言者が告げた預言のほとんどは、神の民へ向けたもの。主イエスと使徒たちの預言も、対象はやはり信仰者。
- 預言の中心は、罪の告発と悔い改めの促し。主イエスの言葉も、使徒の書簡も、同様。
- 私たちが、「さばくべき者は、内部の人たち(1コリ5:12)」
 - ➔ 教会内や家庭内の罪を告発しなければならない時がある
個人例) かつて所属した教団への呼びかけ

拒まれても、伝え続けよう 主が守られる!!

★ 主の守りの内に遣わされよう ★

- 福音を伝える、罪を告げる。多くの場合、拒まれる。それでも遣わされていく中で、実感させられる主の守り。
- 私も、主の憐れみにより、救われ、今を支えられている。へりくだって主に信頼し、主に期待しよう。
- 主は、永遠の視点から、忍耐して私たちを導かれている。私たちもまた、栄光のゴールを仰ぎ見て、遣わされていこう。

遣わされるただ中で、主の恵みは増していく

てん とう わたし つみ
「天のお父さま。私たちの罪をゆるしてください。

わたし かみ みこ しゅ
私たちは、神の御子、主イエス・キリストが、

わたし つみ あがな じゅうじか し
①私たちの罪を贖うために十字架で死なれ、

はか ほうむ
②墓に葬られ、

みっかめ ふっかつ しん
③三日目に復活されたこと、を信じます。

わたし しゅ しめい つか
私たちは、主の使命に遣わされます。

しゅ にんたい しゅ しんらい あゆ
主が忍耐してくださっていますから、主に信頼して歩みます。

しゅ いちぶ わたし まも
キリストのからだの一部である、私たちをお守りください。

しゅ な いの
主イエス・キリストのみ名によって祈ります。 アーメン」